



果樹特報

No.6

平成 25 年 6 月 14 日
J A 中野市営農センター
J A 中野市りんご・もも部会

昨年より 11 日早く梅雨入りしましたが、高温・少雨が続いています。これから梅雨後半にまとまった雨量が予想され、気温も高く推移していることから、果実腐敗性病害（輪紋病・炭疽病・褐斑病）の感染・拡大に好適な高温・多湿状態になる可能性があります。この梅雨期間に散布間隔が空いてしまうと病気の感染拡大が進み、8 月以降の成熟期の果実腐敗の要因となります。よって、定期防の薬剤散布は概ね 15 日として進めますが、今後、雨が続く予報が出た場合は、予定より前倒して散布を進めましょう！詳しくは下記の内容によりますが、不明な点は営農センター担当までお問い合わせください。

りんご

6 月中下旬の薬剤散布(前回より 15 日後)

散布時期：6 月 20 日～25 日 *注意事項①参照

散布薬剤：水	1 0 0 リットル
展着剤	1 0 ml *注意事項③参照
キノンドーフロアブル	1 2 5 ml (14 日前、4 回)
オーソサイド水和剤 8 0	1 2 5 g (14 日前、6 回)
サイアノックス水和剤	1 0 0 g (30 日前、3 回)
スイカル	1 0 0 g (カルシウム剤) *注意事項④参照

散布量：10a 当り 600 リットル *注意事項⑤参照

対象病虫害：輪紋病、炭疽病、斑点落葉病、褐斑病 *注意事項②参照

シンクイムシ類、ハマキムシ類、キンモンホソガ、クワコナカイガラムシ

散布日	月	日
散布量		リットル

【注意事項（輪紋病・炭疽病・褐斑病防除対策）】 *必ずお読みください。

- ① 6 月上旬の薬剤散布が遅れた場合は、上記の目安時期より前倒して散布する。（散布間隔は 10 日程度とする。）
- ② 炭疽病・輪紋病の感染が心配される場合は、6 月 30 日頃にオキシラン水和剤 500 倍を特別散布する。散布間隔は前回より 7 日後とする。
- ③ 通常展着剤（ハイテンパワー等）に代えて、固着性展着剤のアビオン E の 1000 倍（100 リットルに 100ml）を使用すると薬液付着効果が高まる。
- ④ カルシウム剤「スイカル」の 1000 倍は、ビターピット・果実軟化防止や果実からの油上がり予防、果実の日持ち性向上、新梢の徒長抑制などに効果があるので、必要により加用する。
- ⑤ 園全体によく飛散するように、散布量は多めに設定する。特に園が込み合っている場合は、外周等に死角がでないように注意する。

注：裏面に「もも」と「ネクタリン」の防除が載っています。

せん孔細菌病の春型枝病斑が散見されています。枝病斑は見つけ次第、除去しましょう！
また、引き続き重要防除時期となりますので、薬剤散布は間隔が空きすぎないようにしましょう。
薬剤散布は高温時を避け、なるべく涼しい時間帯（早朝）に行ないましょう。

もも

第7回 定期防除

6 月中下旬の散布

散布時期：6 月 2 0 日～2 5 日（前回散布から 1 0 日～1 4 日後）

散布薬剤

水

展着剤

デランフロアブル

劇ダースバンDF

（劇・・・劇物のため、ご購入の際は印鑑をご持参ください。）

1 0 0^{リットル}

2 0 ml

1 6 6 ml（7 日前、4 回）

3 3 g（1 4 日前、5 回）

散布日

月

日

散布量

リットル

対象病虫害：せん孔細菌病、灰星病、ホモプシス腐敗病、シンクイムシ類、ハマキムシ類、ウメシロカイガラムシ

1 0 アール当り散布量：6 0 0^{リットル}

【注意事項】

① せん孔細菌病の発生が心配される場合は、マイコシールド 1,500 倍（収穫 21 日前、5 回）を加用散布する。

② カメモシ類、モモハモグリガの発生園は、アルバリン顆粒水溶剤の 2,000 倍（前日、3 回）を加用散布する。

③ ハダニ類の発生園は、カネマイトフロアブル 1,000 倍（7 日前、1 回）を加用散布する。

④ デランフロアブルは「ぶどう」にかかると汚れ、サビを生じる恐れがあるので、飛散しないようにする。
なお、使用の際はボトルをよく振ってから使用する。＊ネクタリンも同様

ネクタリン

第7回 定期防除

6 月中下旬の散布

散布時期：6 月 1 9 日～2 4 日（前回散布から 1 0 日～1 4 日後）

散布薬剤

水

展着剤

デランフロアブル

劇ダースバンDF

1 0 0^{リットル}

2 0 ml

1 6 6 ml（1 4 日前、2 回）

3 3 g（1 4 日前、2 回）

散布日

月

日

散布量

リットル

対象病虫害：せん孔細菌病、灰星病、黒星病、ホモプシス腐敗病、ハマキムシ類、シンクイムシ類、（モモハモグリガ）

1 0 アール当り散布量：6 0 0^{リットル}

【注意事項】

① カメモシ類、モモハモグリガの発生園は、アルバリン顆粒水溶剤の 2,000 倍（前日、3 回）を加用散布する。

② ハダニ類の発生園は、カネマイトフロアブル 1,000 倍（3 日前、1 回）を加用散布する。

③ デランフロアブルに代えてベルコートフロアブルの 2,000 倍（前日、2 回）でもよい。

- 【もも・ネクタリン重点作業】
- ◎摘果の見直しをしましょう

・下枝は強め、上枝は弱めの摘果に心がけてください。

・凍霜害などにより着果量が不足する場合は、品質にかかわらず必要量を確保するよう努めてください。

◎袋掛け・・・品質向上のため、あかつき・たまき等も積極的に袋掛けを行なってください！

仕上げ摘果が終わりしだい早めに袋かけをしましょう。特に山根白桃やネクタリンの秀峰は遅れると着色不良や小ヒビ・ハダ荒れが発生します。6 月末日をめどに終わらせましょう。ただし、ファンタジア・黄金桃は生理落果終了後、7 月上旬頃から行なってください。また、袋かけの際に再度着果量の見直しを行なってください。

◎徒長枝切り・摘心^{てきしん}（葉 4～5 枚で切除）

樹冠内部まで光がよく入よう徒長枝切りや摘心を行いましょう。来年の良い結果枝を作るためにも大切な作業です。

◎土壌管理

疫病防止と土壌の乾燥防止のため敷ワラを行なってください。降雨が少ない場合は、定期的に灌水を実施しましょう。雨が多く過湿になりやすい場合は、排水対策を行なってください。

薬剤散布の際は、隣接する園地に飛散しないよう注意してください！